

宮前支部研究だより

第1回宮前支部授業研究会

11月20日(水)に稗原小学校にて第1回宮前支部授業研究会が行われました。稗原小学校の先生方を中心にご多用の中、多くの方々にご参加いただきありがとうございました。

雨の影響で授業を行うことができなかったため、前時までの授業の様子を動画で観たうえで研究協議を行いました。研究協議では、多くの方から意見や感想をいただき、活発な意見交流ができました。話題になったことや意見や感想をまとめました。

≪4年生 走・跳の運動 「リレー」～つなげ ゴールまで!～≫

授業者 森山 盛宏先生

研究協議

○感想や意見 ☆質問 ◎質問に対する回答

□教師のねらいと実態

アンケート結果から、ほとんどの児童が「リレーを行ったことがある」と答えていて、リレーの学習に前向きな姿勢の児童が多い一方で、走ることやバトンの受け渡しに不安を感じている児童もいることが分かった。不安を感じている児童も楽しくリレーの学習をしてほしいという教師の願いから「安心して楽しめる体育学習」をテーマに学習の進め方を考えていった。

テーマに迫るための手立てとして①場について②感覚を養うための予備運動③課題や友達のよさを見付けるためのGIGA 端末の活用の3つの視点で協議が行われた。

【①場について】

○2コースに分かれていることで、安全面における工夫があってよかった。

○2コースにすることで、苦手な児童への配慮ができたり、最後まで勝敗が分からないドキドキ感があつたりしてよかった。一方で、ロングコースの児童が中に入ってくる様子もあったため、その工夫は必要だと感じた。

○バトンパスと2コース、両方の指導をするのが大変そうだと感じた。

☆なぜ2コースリレーにしたのか？

◎苦手な児童でもショートのコースで前向きになれることや、勝敗がシンプルで分かりやすいと感じた。

今回はタイムではなく、勝敗を競わせたいと思った。バトンパスを意識させた。

【②感覚を養うための予備運動】

☆なぜ「ペーパーパス」と「ベルトコンベアー」にしたのか。

◎いくつか考えた中で、スピードを落とさずバトンパスをつなげることを大切にしたいと思ったから、その動きにつなげるためにこの2つに決めた。

【③課題や友達のよさを見付けるためのGIGA 端末の活用】

☆GIGA 端末は有効だったか？「速く走るためには？」「バトンパスを上手につなげるためには？」など、使う必要性が子供たちから出てくるとよい。

☆GIGA 端末の有効性は目的に応じての使い方だと思う。「バトンパスの手」、「コースの曲がり方」など、目的によって撮る位置が変わってくる。動画を見る際、どんなポイントや視点を与えていたのか。

◎「バトンの受け渡しの瞬間」「目印のどこで受け手が走り出したか」を見る視点として伝えていた。



【その他】

(司会より) タイムはあった方がよいか?なかった方がよいか?

「タイムはなくてよい」と思う→勝敗があるものは勝ちにこだわってほしい。

「タイムがあった方がよい」と思う→バトンパスがうまくいかなくても勝てばよいと感じる。さらにタイムがあることで、高みを目指していけると思う。勝ち負けは結果なので、タイムを速くするという過程を大切にしてもよいと思う。

指導講評 講師：佐藤 大樹先生(川崎市立小学校体育研究会助言者、川崎市立西野川小学校教頭)

【はじめに】

- ・4年生のリレーの学習では、「知識・技能」→楽しさや喜びに触れること、「思考・判断・表現力」→課題を見付け、解決するために見通しをもちながら試行錯誤すること、「学びに向かう力、人間性等」→進んで取り組む、安全に気を付ける、決まりを守る、受け入れ認めることを大切にしてほしい。
- ①お楽しみ会でやったリレーを学習でしたことにしてしまう②トラックが妙に小さい③テイクオーバーゾーンがない④「勝った」「負けた」だけ⑤なぜか全力で走らないなど、このようなことがないように授業を進めていくことが大切。
- ・相手がいて、競走できことに感謝する子供にしてほしい。

【今回の授業について】

①安心して取り組める体育学習

- 2コース、トラックや設計のしかたについて
- 2コースのよさとは、チームの走力が均等であり、安心して学習に参加することができる。
- 不確定要素があり、誰でも喜びを共感できる。
- 学習課題が明確であり、主体的に取り組むことができる。チームで対話を重ねて練習解決ができる。
- 予備運動
- 準備運動ではなく、主運動のための運動である。
- 子供にとって、必要感があることが大切。

②スピードをつなぐにはどうしたらよいか 課題解決の見通し

- 「スピードをつないでいく」という楽しさや、競走する楽しさや記録を高める楽しさを感じられるようにする。
 - 例えば「走者のスピードを落とさずにバトンパスをするにはどうしたらよいだろう?」という問いがあったとしたら、
 - タイミングよく走り始めることができれば・・・
 - バトンパスがうまくいけば・・・
 - コーナーをうまく走り抜けることができれば・・・
 - チームで協力して、試行錯誤しながら練習すれば・・・
- など「問い」と解決の見通し、自己課題に向かって学習に参加できるようにする。
- グループの中でバトンパスやパスをもらうときの体の向きなど、任せてもよい場面はあるが安全面には十分気を付けなければいけない。
- 円形トラックのリレーや、タイムトライアルリレーなど、いろいろなねらいのリレーがある。子供たちが楽しくリレーの学習を行うことができるよう、実態に応じて考えていってほしい。

担当：宮崎小学校 澤山 みづほ 文責：向丘小学校 野呂 周平